

は じ め に

鹿児島県立屋久島高等学校

校 長 北 浩 憲

本校は、全校生徒240名の小規模校ですが、生徒と職員が力を合わせて地域に信頼かつ愛される学校づくりに励んでいます。普通科環境コースの研究活動、情報ビジネス科の地域貢献活動、高校生クラブ「ぼんだま」のボランティア活動など、本校の特色ある取組は広く地域に知られ期待されています。

職員も地域行事やイベントに参加したり、島内の小中学校で開催される公開授業や研修会に積極的に出かけて行き、情報交換を行うとともに様々な面での指導力の向上に努めています。なかでも、中学校への出前授業は、高校での授業の一端を紹介することで、中学生の進路学習に寄与するとともに本校職員にとっても貴重な研修の機会となっています。このように、学校内での研究・研修にとどまらず、校外へ出かけて情報収集に努め、自己研鑽を積むことは、教師として非常に大切なことです。

改めて言うまでもないことですが、グローバル社会の中で、異文化との共生を図りながら、自分の人生を切り拓いていかなければならない生徒たちに、生きる力の基盤となる確かな学力を身につけさせることは教育の重要な責務です。授業においても、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成が求められています。このように、身に付けた知識や技能を実生活に活用することのできる「真の学力」を育成する授業を目指さなければなりません。

こういう意味から、現在実践している教育活動を振り返り、課題を認識するとともに、今後の改善や向上を目指すために、研究実践や論文をまとめることには大きな意義があると思います。

今後は、これまでの研究成果を踏まえながら、より一層「真の学力」を育成する授業づくりに軸足を置いた研究が展開されることを期待しています。職員のこれまでの研究実践に敬意を表するとともに、今後も更なる自己研鑽を重ねることで実り多い教育活動が実践されることを願っています。

この研究紀要をお読みいただき、多くの方々からの忌憚のない御意見・御指導をいただければ幸いです。